

大好評! 地区ニュース
第5弾

130年目の再出発

ふるさとづくり「^{しょう がっ こう}佐護笑楽校」



さごんキッチンのお客様
Iターンで対馬に住む、佐久間さん(左)と楠瀬さん(右)



音楽室が食堂に!?
準備室が厨房に!?

さごんキッチン

SAGO's KITCHEN

8年前に閉校した佐護小学校に、今年4月再び明かりが灯りました。「ふるさとづくり『佐護笑楽校』」は、地域の大切な場所だった学校が、地域の人たちが集い交流する場所としてはもちろん、地域の魅力を五感で感じてもらうための場所として生まれ変わりました。

金曜日のお昼時に佐護笑楽校に入ると、どこからともなく良い匂いがしてきます。「音楽準備室」の看板がある部屋をのぞくとそこには、おいしそうな料理を作る、佐護のお母さんたちの姿が! 佐護を味わうレストラン『さごんキッチン』の食堂スペースは、校舎2階の角に位置する元音楽室。佐護の風景が見える開放的なスペースで食事を楽しむことができます。この日のメニューは、佐護で採れた野菜を使った串カツ、対馬の家庭でもよく食べるそうめん汁、もちろんお米は佐護米です。

食事をされていた人に話を伺うと「外食というよりも、お母さんが作ってくれたご飯という感じがすごく良いです。目の前で育っている物を食べられることはなかなかありませんし、地域の味を食べたいと思っても、売ってはいないし、簡単に食べられませんから、ここで手軽に頂けるのはうれしいですね。食堂も、いつもとは少し違う雰囲気を楽しむことができるので、非日常感を味わうことができ、とても気に入っています。佐護の風景の中での食事で、心もお腹もいっぱいになります。」と話してくれました。



佐護ならではの、温かい家庭料理を!

佐護ならではの料理を出したいとの思いから、さごんキッチンで作る料理は全て手作り。6人の地域の女性陣が、交代で家庭料理を振る舞います。食材もなるべく佐護のものを使っており、旬の食材を使った「おまかせランチ」が食べられます。そのほか、毎回スタッフ手作りの包装紙がかわいらしいお弁当も人気で、イベントに合わせたお弁当なども作っています。

また、佐護笑楽校には、食堂だけでなく、住民が集うサロンやキッズスペースなどもあります。会議室は、佐護地区の自然や産業、文化などを学ぶ場所として活用されています。

今後は、簡易宿泊施設を作るなど、佐護地区のことを知ったり感じたりするための拠点としての役割が期待されています。



佐護の人たちが作った工芸品や加工品が並ぶギャラリーショップ



旧佐護小学校で25年間、給食を作ってきた八島さん
その味は、佐護の人たちの舌に刻み込まれています



毎週買いに来るお客さんも



交流スペースやキッズスペースは、地元の人たちだけでなく、市内各地からお客さんが集まります



足踏みしていた閉校後

明治24年の創立から130年後に再スタートを切った旧佐護小学校は、どのようにして生まれ変わったのでしょうか。閉校時の佐護区の総区長で佐護笑楽校運営会の代表を務める平山美登さんに伺いました。



当時、児童や生徒の数が減り、行事などでの保護者の負担が大きくなるなど、学校を維持することが難しくなって、閉校への流れが加速しました。地域としては何とか残してほしいという思いがありましたが、その流れを止めることはできませんでした。

閉校して1年がたち、子どもたちの声が学校から聞こえないのはさみしい限りでした。何とかしようとの思いから、利活用に向けた計画を佐護全体で作成しましたが、実際にどうしていくかという話にはならず、閉校からどんどん時間がたっていきました。

また、計画は立てたけれど、実行に移すことができなかったのは、最終的に誰が実行するのかという問題でした。実行するということは、そこに責任が生まれます。区ではそこまで行く訳にはいきませんから、その部分で大きな壁にぶち当たってしまったのです。そんな時、高野さんが対馬に来てくれて、実現に向けて大きく動き出したんです。（平山 美登さん）

計画実行に向けたキーマン

閉校から6年が経ち活用に向けた道筋が見えない中、一人の移住者が対馬にやってきました。地域コーディネーターで運営会社代表の高野 清華さんです。

これまで、島根県の離島・隠岐や、熊本を含めて、民間の地域づくりコーディネーターとして14年間、仕事に取り組んできました。地域が持つ力を引き出させていただき、活かさせていただくのが本業です。長年、地域まるごと、地域の知恵や技、心に学ぶことのできる学校づくりという夢を持ち続けてきた私は、きっかけをいただいて、対馬や佐護を知り、佐護の皆さんの思いを知りました。

地域の皆さんの、地域を守っていききたい、より良くしていききたいという気持ちが、全ての土台だと思っています。ご縁をいただき、佐護の地域の方々の、大切な学び舎を活かして、地域のさらなる元気づくりに活かしていきたいという思いと出会い、感銘を受け、昔から地域の拠り所であった佐護小学校で、地域に学ぶ学校づくりに取り組みたいと思いました。

令和2年4月に、地域の方々と、現在の運営事務局となる非営利型の「株式会社 対馬地球大学」を立ち上げました。私は地域の最大の魅力は人だと思っています。その魅力に食を通して触れていただくのが、食堂「さごんキッチン」です。地域の女性陣の皆さんは、目の前の豊かな素材を、知恵と技によって美味しい家庭料理や郷土料理に変えて、たくさんの人の笑顔につなげる力を持たれています。また、地域の名人に学ぶ体験交流プログラムも実施しており、今後展開する、国内外から地域の知恵や技に学ぶ教育プログラムに向けても、準備しています。（高野 清華さん）



地域の人たちと考えた「笑楽校」

地区の内外から旧佐護小学校を起点に地域を元気にしたいと人々が集まり、一度はあきらめていたプロジェクトが動き出します。

オープン前には、地域の人たちへの説明会や意見を聞く会を開き、拠点オープンに向けて準備を行いました。校舎の愛称を考えるワークショップでは、「佐護」という名前を入りたいなどの意見が出されました。その中で生まれたのが佐護笑楽校です。



故郷へ帰るきっかけづくり

運営会にも参加するUターンのアーティスト小宮さん。今年9月、ものづくりワークショップの講師を務めました。



自分が通っていた学校を生まれ変わらせる経験なんて、できるものではないので、喜んで参加させてもらいました。閉校したら、里帰りしても学校に入ることはできません。しかしこうやって再び学校に明かりが灯ることで、島外に出た人たちが、故郷へ帰るきっかけになってくれたら良いと思います。（小宮 翔さん）

佐護笑楽校を地域コミュニティの拠点に

地域コミュニティの基本となるのは、住民が歩いて交流できるエリアといわれています。高野さんや佐護の人たちは、これまで佐護小学校が担ってきた地域の拠り所が、閉校により失われたことを踏まえ、新たな地域づくりや交流の拠点づくりを目指したいと考えています。また、地域がこれまで蓄積してきた生活の知恵を学びに活かすことで、地域の魅力を外へ発信しようと取り組んでいます。



島外から集まった仲間、椎野さん(左)と本迫さん(右)

文部科学省によると、過疎化、少子化の影響で、全国で毎年約470校が廃校となっています。全国でも、地域課題の解決や地域活性化のため、交流施設や福祉、産業での活用などの取り組みが行われています。地域の人たちが民間企業を起こして地域活性化に取り組む今回の事例は、全国的にも珍しく、その動向が注目されています。

学校に再び地域の人たちが集う場を作るとともに、地域で積み重ねられた歴史や生活の知恵を、地域の資源として多くの人の学びに役立ててもらおうとスタートした佐護での取り組み。皆さんもぜひ一度訪れてみてはいかがでしょうか。

さごんキッチン SAGO's KITCHEN

対馬市上県町佐護北里995

☎0920(84)5024 携帯090(8576)5024

【営業日】金・土・日

【ランチ】11:30~14:00

【カフェ】11:30~17:00 (16:30 ラストオーダー)

【お弁当】11:30~14:00頃

※ランチとお弁当は、前日16:00までに予約が必要です。



さごんキッチン
Instagram



対馬地球大学
Web サイト



対馬地球大学
Facebook



対馬地球大学
Instagram



対馬地球大学
LINE